

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行  
第4回フォーラム研究会  
議事録

日時：平成25年6月28日（水） 13：30～17：00

場所：東京大学工学部12号館2階会議室

出席者：15名（順不同・敬称略）

木村(PONPO)、足立(元気ネット)、植木(元気ネット)、円満字(PONPO)、大石(PONPO)、  
神崎(PONPO)、久保(PONPO)、鬼沢(元気ネット)、渋谷(元気ネット)、  
崎田(元気ネット)、竹中(PONPO)、中岡(元気ネット)、丸山(PONPO)、諸葛(PONPO)、  
土田(関西大)(社会調査グループ)

配布資料

- F4-0. 議事次第
- F4-1. 第3回フォーラム研究会議事録案
- F4-2. 反省会メモ（第3回フォーラム終了後）
- F4-3. 第3回フォーラム時間配分結果
- F4-4. 第3回フォーラムに関するアンケート（自由回答）
- F4-5. 第4回フォーラムスケジュール表
- F4-6-1. 第3回フォーラム グループワーク付箋まとめ（A班）
- F4-6-2. 第3回フォーラム グループワーク付箋まとめ（B班）
- F4-6-3. 第3回フォーラム グループワーク付箋まとめ（C班）
- F4-7. 第5回フォーラムスケジュール表
- F4-8. フォーラム終了時のアンケート案

議題

- 0. 議事録確認
- 1. 第3回フォーラムの反省
- 2. 第4回フォーラムについて
- 3. 第5回フォーラムについて
- 4. フォーラム終了時のアンケート等について
- 5. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

## 0. 議事録確認（配布資料 F4-1）

木村氏より、資料 F4-1 に基づき、議事録の確認がなされた。

## 1. 第 3 回フォーラムの反省（配布資料 F4-2、F4-3、F4-4）

木村氏より、資料 F4-2、F4-3 に基づき、第 3 回フォーラムの反省事項の確認がなされた。

その後、資料 F4-4 に基づき議論が行われた。

- ・ 遅く来るとファシリテーターになってしまうとの意見があるが、くじを覗いている方がいるのでは？（早く来た人がファシリテーターでなくくじを引いているのでは？）  
→2 つに折っているから見えない。覗いている様子もない。ただの偶然だと思われる。
- ・ 参加者の選定方法について不信感があるという意見があるが、第 4 回で弁解するのか。  
→第 1 回で軽く触れているし、第 4 回の時点では今更感が強い。「後ろめたさがあるから、また説明しているのか」と取られるおそれもある。  
→ただし、次年度に向け、反省することは大切。（第 1 回で丁寧に選定方法を伝える・応募が 10 名以上になる努力）  
→ホームページにきちんと見解を示すことも重要。
- ・ 首都圏参加者からは面白かった、わくわくするなどのご意見が寄せられているが、学会員参加者からはそういったご意見は少ない。
- ・ 「どちらともいえない」「原発は廃止すべき」の層だけだったとしても、そこまで反対に偏らないかもしれない。
- ・ （参加者選定には使えないだろうが、）調査票において、「まともに議論ができる人」を測れるような質問項目を作り、分布を調べられたら興味深い。  
→「まともな議論ができる人」は、曖昧なことに対する耐性が高いのではない。（自分の意見と異なる意見も受け入れられる）
- ・ サブファシリテーターは、第 1 回はかなり積極的にグループワークを仕切り、第 3 回はかなり抑えた。研究の目的上、どのような振る舞いが適切なのか。  
→今後は第 3 回程度の振る舞いが望ましいだろう。ただし、サブファシリテーターがいないとグループワークが成立しないので、サブファシリテーターの役割は非常に重要だと考えている。  
→第 1 回で積極的に仕切ったことも必要だったと考えている。ただし、第 1 回で、グループワークの目的（まずはいろいろな方の考えを聞くこと）、サブファシリテーターの役割を説明しなかったことは反省点である。

## 2. 第4回フォーラムについて（配布資料 F4-5）

木村氏より、資料 4-5 に基づいて、第4回フォーラムのスケジュール案が説明された。第4回は、参加者に3つのテーマの中から1つを選んで調べてもらった内容を共有する。テーマごとに均等な人数になった場合は、テーマごとのグループワークが望ましい（案②）。しかし、テーマごとに人数のばらつきがあった場合、それは困難である。それぞれのケースについての案が紹介された。案に対する意見と合わせて示す。

### 【案①（資料 F4-5）】

テーマに関係なく、4つの班に分かれ、60分のグループワークを行う。1班4、5人のため、1人に対する時間は12分または15分。

最初に5分間で、調べたことを発表。2分間で、その他のメンバーが意見を付箋に書き出す。3分間でその意見を表明する。残り時間はディスカッション。このセットを、メンバーの数だけ行う。

ファシリテーターは持ち回り。（例：次に発表する人がファシリテーター）

- ・ ディスカッションの方針を決めたほうがいいのでは。意見に対して答えるだけになったり、意見を言うだけになったり、専門家への質問だけになったりするのでは。  
→グループ内の成り行きに任せる。
- ・ 12(15)分経過したら次の人へ、を徹底する。時間管理はサブファシリテーターが行う。
- ・ 3分間の意見表明は、まず全員に話してもらうことを徹底させる。（その間は、発表者は発言しない）その後のディスカッションは、それらの意見を受けて、発表者から口火を切ってもらうというのもひとつの方法。
- ・ 意見表明、もしくは質問、という形でもいいかもしれない。（ただし、上記の通り、質問に答えるのは、全員が表明した後のディスカッションの時間）
- ・ グループワークは休憩含めて70分に変更。（第2回のグループワークと同様）
- ・ 話し合いの内容が細かくなってきて、運営側の人間に（休憩中に個別に）質問が来る可能性があるが、運営側は質問には対応しない。
- ・ 4班になるので、サブファシリテーターの振り分けの調整が必要（参与観察者が新たに加わる）。少なくとも、経験者が各班1人はいたほうがいいのではないか。→元気ネットで別途調整。当日までに決定する。

### 【案②（テーマごとのグループワーク）】

テーマごとの班に分かれ、2回グループワークを行う。1回目で意見の共有、まとめ。2回目は他の班のメンバーからの質問への回答。（第2回、第3回と同様の形式）。

- ・ 可能ならば、今までの方法を踏襲した案②が望ましい。（方法が変わるとそれに対する理解で時間を取られる）
- ・ 3つとも広範なテーマなので、テーマごとで集まったほうが議論は深まるだろう。
- ・ 10名、4名、4名程度の偏りだったら、10名を2班にして議論してもいいのではないか。  
→それもひとつの方法。ただし、全体共有の時間が長くなるので、グループワークの時間が減り、うまく回らなくなる可能性はある。

テーマに対する人数の分布を見て、どちらかを採用することとした。人数が均等であれば案②、均等でなければ案①となる。

### 3. 第5回フォーラムについて（配布資料 F4-7）

木村氏より、POおよび外部評価委員の視察の可能性があることが連絡された。第4回で、参加者に視察について同意を確認することとなった（同意が得られなかった場合は、視察はお断りする）。また、POが視察された場合でも、特に挨拶等はいただかない方針となった。

第1回同様、終了後に懇親会を開催することになった。フォーラム終了後のアンケートが控えているため、運営側は参加者に極力接触しない。同様に、POおよび外部評価委員にも、参加者とはなるべく話をしないようお願いすることになった。

以上の対応は、基本的に、参加者に対して不要な外乱を与えず、可能な限り正確にフォーラムの効果を測定するためのものである。

続いて、第4回フォーラムで第5回のテーマを発表するため、テーマに対して議論がなされた。

テーマ案：『フォーラムを通して、私たちは変わっただろうか？』

（『「原子カムラの境界を越える」とはどういうことなのか？』『どうしたら越えられるのか？』）

- ・ 「私は」にすべきではないか。
- ・ 「変わっただろうか」と聞くのは、「変わらなければダメ」と捉えられるおそれがある。変わることを強制するような問いかけは不適切だと感じる。

- ・ 第1回と同じテーマにし、その差を見ることで変化を測ってはどうか。  
→第1回は議論を深める時間がなかった。
- ・ 「何か気がついただろうか?」、「何か得ただろうか?」、「何か発見しただろうか?」はどうか。  
→個人レベルではあるかもしれないが、グループワークで議論が深められるか不安。  
→グループワークに適さないテーマについては、後で個別インタビューで聞くこともできる。
- ・ 「原子カムラに対する認識は変わっただろうか?」はどうか。  
→「認識とは何か」という点に囚われてしまうかもしれない。
- ・ 「原子カムラの境界はあったのか? それを越えるにはどうしたら良いか?」とシンプルに聞いてはどうか。
- ・ 自分がどう思うかだけでなく、他の人がどう思っていると思うか、という観点も入れてはどうか。
- ・ 「私は何ができるか」を聞いてはどうか。→誘導と取られるおそれあり。
- ・ 「越える」「変わる」等のニュアンスは排除し、シンプルに、「原子カムラはあるのか、ないのか? 原子カムラというものをどうしたら良いか?」はどうか。  
→「もう一度考えよう」を頭につけてはどうか。
- ・ 議論がどこまで深まるかは、ファシリテーターの力量に大きく左右される。  
→グループとしては迷走しても、個々で気づきがあれば、構わないと思う。  
→最終回なので、グループ内でファシリテーター役を決めてもらってもいいかもしれない。

以上を受け、テーマ名は『もう一度考えよう、原子カムラはあるのか、ないのか? 原子カムラというものをどうしたら良いか?』とした。

その他の詳細については第5回フォーラム研究会で議論する。

#### 4. フォーラム終了時のアンケート等について（配布資料 F4-8）

土田氏より、資料 F4-8 に基づき、フォーラム終了時に実施するアンケート案の内容が説明された。

「原子カムラとは何だと思えますか」などの質問の選択肢は、フォーラム参加者の発言からピックアップされている。

- ・ 「立地地域」に関しては、「市町村そのもの（例：東海村）」「立地地域に住んでいる人」「立地地域で関連の仕事をしている人」「立地地域の行政職員」など様々な意味があるので、必要に応じて、意味の違いを分かりやすく示す必要がある。

その他の主な指摘事項を示す。

- 3 ページの内容は各回終了後に毎回聞いているものだが、事後調査でも改めて聞くのか？  
→第 5 回終了後と事後で、どちらとも聞く。
- Q16 は削除。
- Q17 はフォーラム開始前からの変化を見るということか？  
→1 月調査、申込書、事前調査でも聞いているので、事後調査でも聞きたい。
- Q19、20 と Q26、28 は内容が重複。→Q19、20 は削除。
- Q21 は、「原子カムラ」に悪い点があるとすれば、とあるが、悪いと決めつけて問うていいのか。  
→「原子カムラと市民の間に境界があると思いますか？」「その境界は何でしょうか？」の 2 問の構成にする。
- Q25、26 の「印象」については 5 択、Q27、28 の「理解が深まったか」は 4 択。選択肢の幅をそろえたほうが分析しやすいのではないか。  
→前者はプラスマイナスのスケールであるのに対し、後者は 0 からのスケールであるため、単純にそろえることはできない。

時間の関係から、詳細については第 5 回フォーラム研究会までに各自が検討し、再度議論されることになった。

## 5. その他

木村氏より、第 5 回フォーラム研究会の日時（7 月 12 日（金）13 時～16 時）が確認された。

以上